

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名> 肺癌の頭蓋内転移に対する全脳照射のタイミングに関する観察研究
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 放射線治療科 (研究責任者)石橋 直也
<研究期間> 承認日 ~ 西暦 2022年 12月 31日
<研究の目的と意義> 肺癌において脳転移は起こりやすく非小細胞肺癌(NSCLC)では経過中の50%や根治的放射線治療後の16-30%に起こると報告されています。また小細胞肺癌(SCLC)では初診時に10-14%に脳転移が見つかったり根治的放射線治療の59%に起こると報告されています。ガイドラインではNSCLCの4個以上の脳転移に対して、またSCLCの脳転移は多発する傾向にありこれに対して全脳照射(WBRT)が推奨されています。少数の脳転移に対しては多くのランダム化比較試験で定位照射に全脳照射を追加することによってその後の頭蓋内再発を有意に減らすことが報告されている一方でいずれの試験でも全脳照射を追加することによって生存率は改善しませんでした。長期生存が期待される患者の全脳照射では総線量の増加も検討されます。過去に全脳照射を行ったタイミングと生存率に関する報告はほとんどありません。今回我々は初診時頭蓋内転移を有し全脳照射を行った initial WBRT group と初診時頭蓋内転移がなく全身抗がん剤治療後の頭蓋内転移再発あるいは初診時頭蓋内転移を有するも無症状で全身抗がん剤治療を先行した後に頭蓋内転移が増悪してから全脳照射を行った late WBRT group について生存率などを初めて比較検討します。本研究の結果によっては肺癌の頭蓋内転移に対する最適な全脳照射のタイミングや照射線量が判明する可能性があります。
<利用する試料・情報の項目> 過去に当院で肺癌の頭蓋内転移に対して全脳照射を行った患者さんについての臨床情報やCTやMRIの画像データや放射線治療データ
<対象となる患者さん> 2014年1月1日～2020年12月31日の期間に当院で肺癌の頭蓋内転移に対して全脳照射を開始した方
<研究の方法> 過去に当院で肺癌の頭蓋内転移に対して全脳照射を行った患者さんについて臨床情報やCTやMRIの画像データや放射線治療効果や予後について検討します。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町30-1) 放射線治療科 氏名:石橋 直也 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2553 (PHS)8648